



平成16年度障害者雇用支援月間ポスター原画募集、厚生労働大臣賞受賞

「僕の絵がポスターになりました」

田北寿男さん（福岡県）



写真・文 / 小山博孝



田北さんの絵のモチーフとなった職場。「子供のころから絵が好きで、よく描いた」という田北さん



厚生労働大臣賞を受賞し、ポスターの原画となった田北さんの作品



本城かんびん資源化センター



手選別コンベア



ポリ袋、処理不適物を除去し、ピンを色別に選別する田北さん

「田北さん、おめでとう。大臣賞よ」と工場で連絡を受けたとき、何のことはじめわかりませんでした。『あなたが自分の職場を描いた絵が入賞したの』『僕あの絵が……』感激でいっぱいになりました」と、田北寿男さんは、入賞の連絡を受けたときの感想を語ってくれた。

毎年、当機構が広く一般に障害者雇用への理解と関心を深めるために、九月の「障害者雇用支援月間」にあわせてポスターを制作している。このポスター原画募集で、田北寿男さん（五二歳）の作品が、絵画（高校・一般の部）で、みごと厚生労働大臣賞に選ばれた。他の三部門・三点の大臣賞受賞作品とともに、四種のポスターが作成され、障害者雇用支援月間の間、全国で掲示された。

北九州市若松区で生まれた田北さんは、地元の小・中学校の特殊学級で学び、卒業後は木箱作りの会社、プラスチック工場等で働いてきた。

温厚で口数少ない田北さんは、当時の職場では差別といじめの毎日だったようだ（当時のことを振り返って書いた『僕の歩いてきた道』が一九九四年、第三回わたぼうし文学賞を受けている）。

現在、田北さんは、北九州市が設立した本城かんびん資源化センター内の福祉工場「本城リサイクル工房」で働いている（北九州市手をつなぐ育成会が運営）。

本誌の原画募集のお知らせを読んだスタッフから、田北さんは絵を描くことをすすめられた。田北さんは、自分と仲間たちの働く職場をテーマに決め、仕事が終わったあと絵の制作に励んだ。「仲間みんなのためにも、一生懸命がんばりました」と田北さん。そして努力の甲斐あって大臣賞受賞となったのだ。

厚生労働大臣賞をとって、初めて賞をもらってうれしかったです。□に出さなかったけど涙ができました。絵は小倉駅の五番と六番のホームの階段下の左がわにあります。（写真は28ページ参照）

後日、本城リサイクル工房の機関紙に感想を寄せていたのが、印象に残った。

本城リサイクル工房（坂本和一施設長）  
TEL093-606-0001 FAX093-606-0001  
〒807-0811 北九州市八幡西区洞北町7-10



アパートで一人で生活する田北さん。本城かんびん資源化センターにはバスで通勤。今年で10年になる



知的障害者26名、スタッフ13名が働く本城リサイクル工房。まずは朝の体操から始まる



朝の通勤時、バス停から職場まで、ゴミを拾いながら出勤する毎日。「いやな気持ちがあるから毎日するけど、毎日ゴミが落ちている。日本がおかしい」と話す田北さん



温厚で、同僚から信頼され、工場内のまとめ役の田北さん



10年目になる田北さん。工場内のさまざまな仕事に対応している



圧縮プレスされたアルミかん 大量のビン、カン、ペットボトルが持ち込まれる



ペットボトルもプレスされる



入賞後、毎月1枚の絵画を完成させる目標を立てた



仕事のあと、さまざまな活動が行われている。今日は栄養士さんによる食物の話だ



「感動したよ」「すごいなあ」「私もうれしい」……と同僚やスタッフからお祝いの声がかかる



田北さんの最新作「日本昔話・ほていさま」「ダックスフント」



パソコンをつかった絵画にも挑戦中だ



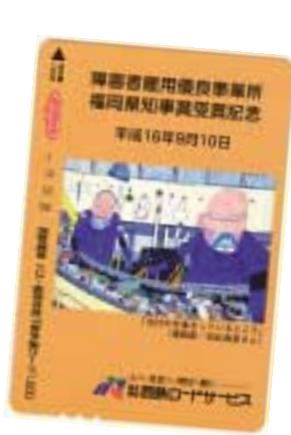
仕事が終わったら、風呂で汗を流す



東京での表彰式の後、作品が展示された前で、青木功厚生労働省職業安定局長（写真右）、征矢紀臣高齡・障害者雇用支援機構理事長と記念写真



田北さんの了承を得て、“よかネットカード”を作成。カードをプレゼントする㈱西鉄ロードサービスの岡主宰取締役部長



田北さんの原画を使用した“よかネットカード”



自分の作品を説明する田北さん



大会のあと、沖縄旅行を楽しむ本城リサイクル工房の皆さん（写真提供・本城リサイクル工房）



全日本手をつなぐ育成会全国大会（沖縄）の本人大会で報告する田北さん（写真提供・本城リサイクル工房）